

明治大学



震災復興支援センター

「若者の未来」のために、復興支援の輪を広げる

東日本大震災において、

お亡くなりになられた皆様のご冥福をお祈り申し上げますとともに、
謹んで哀悼の意を表したいと存じます。

また、被災された皆様、避難生活を強いられている皆様に対しては、
心よりお見舞い申し上げます。

皆様が一日でも早く、普段どおりの生活を取り戻せることを、切望いたします。

この国難といわれる状況下において、

一刻も早い復興に、明治大学もできる限り支援をする責務があると考えています。

今回の大震災は、文明史観、社会システム、科学技術のあり方を考える契機でもあり、
これらの課題に対応することは、高等教育機関としての大学の使命と考えます。

これからの大学は、社会と共生する包容力のある存在にならなければなりません。

社会や経済に貢献し、産官学民あらゆる形態で連携し、

今回の震災に対し世界中から寄せられた支援の輪は、

国境を越え共生する地球市民という概念が、重要になることを示唆しています。

今後、50年後、100年後に生を受ける人類のために、

本学は、震災が引き起こした現実と共に生き、

我が国の復興を担うとともに、地球市民としての役割を担う人材育成の場として、

復興に貢献し、支援の輪を広げてまいります。



センター長挨拶



センター長 針谷 敏夫

2011年3月11日に発生し未曾有の被害を生んだ東日本大震災、発生から刻々と月日は流れていますが、復興へ向けまだまだ先が見えない状況にあります。被災地の一日も早い復興と被災者の平常な生活を取り戻すために、本学も微力ながら出来る限りのことをしようとこれまでも活動してまいりましたが、このたび大学としての社会的責務を果たすため、「明治大学 震災復興支援センター」を設置しました。これまでも多くの学生のみなさん、教職員が独自の支援活動を展開してまいりましたが、本センターでは学内各部門における東日本大震災に関する被災地復興支援活動および復興支援に関する教育研究活動の情報収集、調整とその発信を行ってまいります。

センターの活動としては、リストバンドの配付による啓発活動を端緒に、学生ボランティア活動の支援を中心に実施しています。その他、単位化された学部間共通総合講座「ボランティア実習」等によるボランティアの拠点として開設した「浦安ボランティア活動拠点」や特に被害が大きかった岩手県、宮城県、福島県を中心に復興支援活動を行う「東北再生支援プラットフォーム」を設置しています。本格化・多様化するニーズに対応するため、これらを教務部、学生部のボランティアセンターと協力して運営していきます。

今後、産官学連携による被災地支援を展開するとともに、ゼミや研究室単位の支援活動の情報収集と復興支援に関する教育研究活動のプロジェクト化を推進していきます。さらに、ホームページを通じ支援活動を積極的に発信してまいりますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

2012年10月1日

I 震災復興支援センターの設置

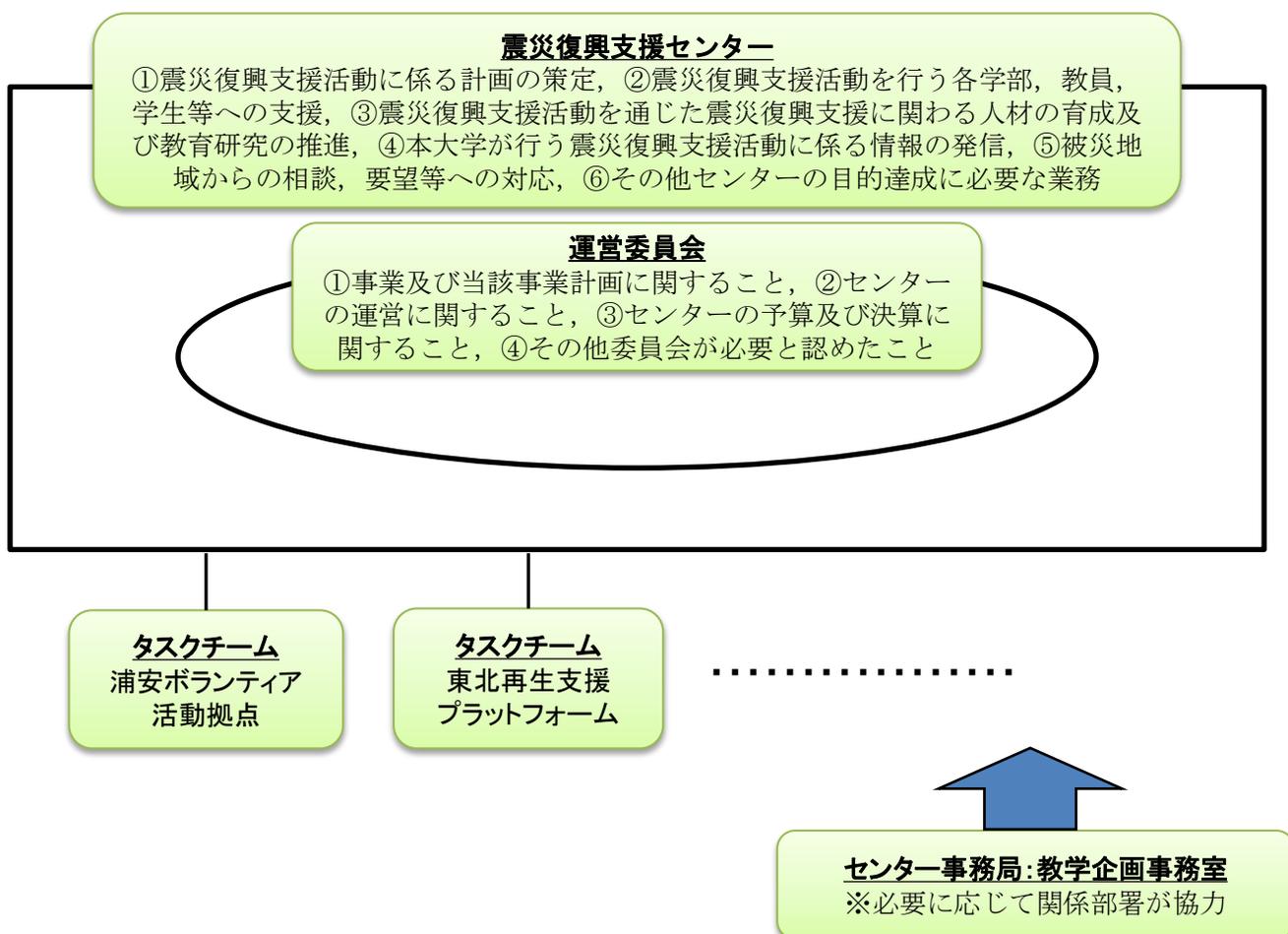
明治大学では、震災直後から統括防災本部の下で学生の安否確認、学内被災状況の確認や防災体制の強化、節電対策等の防災や危機管理活動を進めてまいりました。一方、被災地の一日も早い復興や被災された方々、避難されている方々の平常な生活を取り戻すために、大学として貢献できる方策を検討し、そのひとつとして、「震災復興支援センター」を設置しました。

センターでは本学各部門における震災復興支援活動の支援、情報の一元化を図ることで大学の社会的責務を果たすことを目的に、センター長に針谷副学長、副センター長に、松橋学生部長・ボランティアセンター長、水野商学部教授が就任し、全学体制で復興支援活動を推進します。

当面、センターでは、教務部、学生部と連携した学生ボランティアによる被災地支援を中心に活動してまいりますが、今後は、被災地域との連携の中で、明治大学の各部門における被災地復興支援活動、復興支援に関する教育研究活動の支援、プロジェクト化を推進してまいります。

II 震災復興支援センターの体制

震災復興支援センターでは、以下の体制で活動をしています。特に、震災復興支援活動を推進するための組織としてタスクチームを設置し、震災復興に関する協定を締結している自治体とは、当該組織を中心に活動を展開しています。タスクチームは、今後にも必要に応じて設置して機動的な復興支援活動を推進します。



Ⅲ 活動内容

浦安ボランティア活動拠点
代表者：水野勝之（商学部教授）
対象：千葉県浦安市

- 被災地支援の拠点として、液状化によって激甚災害指定地域となった千葉県浦安市内に『浦安ボランティア活動拠点』を設置。
- 被災した各地域の自治体、学校、企業、NPO等と大学が連携、協働して行う復興支援活動の“前線基地”としての役割を果たす。
- 学生たちによる東北物産品の継続的な販売支援活動、小中学生への学習支援活動、震災による心身の疲れを癒すセルフケアの講習会等のボランティアを実施。
- 文部科学省からの委託を受け、浦安市立入船中学校と共同で、「復興支援人材を育成する正課外を通じたキャリア教育支援」を実施。
- 学部間共通総合講座「東日本大震災に伴うボランティア実習」の実習先としても活動。
- 2012年5月28日に震災復興支援活動を含む「浦安市と明治大学との包括的連携に関する協定」を締結。



学生ボランティアによる東北物産販売



学習支援活動をする学生



講習会でセルフケアを行う学生

浦安市概要

人口約160,000人。東と南は東京湾に面し、西は旧江戸川を隔てて東京都江戸川区と、北は千葉県市川市と隣接している。東京ディズニーリゾートがあることで知られ、東京ベイエリアを代表する都市として発展。東日本大震災では、液状化現象によって深刻な被害が生じた。

東北再生支援プラットフォーム

代表者：中林一樹（政治経済学研究科特任教授）

対象：岩手県大船渡市，宮城県気仙沼市，福島県新地町

- 被災した自治体の復興活動において，自治体間での情報交換，相互協力を円滑に進め，被災地が一体となった復興を側面支援するため『東北再生支援プラットフォーム』を設置
- 明治大学の教育研究資源をベースに人的交流も含め，復興支援のプラットフォームとしての役割を担う。現在，被災地の現状把握，具体的な復興状況等の調査を行い，自治体間の復興ビジョンの整合を図るとともに，地域間の交流の場を提供することを目指す。
- 特に被害の大きかった地域を対象として，現状を認識するとともに，適切な支援活動を把握するために被災地の住民に対しアンケートを実施。協定を締結している自治体等に対し，被災地住民アンケートに基づく政策提言を行い，震災復興支援に資する。
- 2012年9月現在，岩手県大船渡市（2012年4月23日），宮城県気仙沼市（2012年5月18日），福島県新地町（2012年1月26日）の3自治体と震災復興支援を目的とした協定を締結。

※（ ）は協定締結年月日

【大船渡市】

- 株式会社NTTPCとの協力のもと，『東北再生支援プラットフォーム「つむぎルーム」』を設置し，現地の中学生などへの学習支援や，クリスマスツリーを設置。
- 「三陸・大船渡夏祭り」および「盛町七夕まつり」について，飾り付けや設営などの開催準備や夜店の運営など開催時の運営の補助などを手伝う。



大船渡市に設置されたクリスマスツリー



三陸・大船渡夏祭りの運営



盛町七夕祭りの開催準備

大船渡市概要

人口約40,000名。2001年11月に旧市と三陸町が合併して誕生。同市は，岩手県の沿岸南部に位置し，陸中海岸国立公園の代表的な景勝地として知られる碁石海岸や三陸沿岸の最高峰五葉山県立自然公園などを有する自然豊かで風光明媚な街として知られる。東日本大震災においては，死者・行方不明者が425名を超え，物的被害も判明分だけで1,077億円を超えた。

【気仙沼市】

- 気仙沼市で震災復興活動を実施している大学で構成する気仙沼大学ネットワークへ参加すると共に、学生・教職員のボランティア活動の派遣を行うことを予定。
- 気仙沼市の復興計画に必要な**職員の採用試験**を明治大学を会場として実施。



気仙沼市役所関係者との意見交換

気仙沼市概要

人口約70,000人。宮城県の北東端に位置し、東は太平洋に面し、南は宮城県本吉郡南三陸町、北は岩手県陸前高田市に隣接。沿岸域はリアス式海岸を形成し、その美しさにより、陸中海岸国立公園及び海中公園並びに南三陸金華山国定公園の指定を受けている。東日本大震災においては、同市の死者・行方不明者が1,322名を超えた。

【新地町】

- 東日本大震災発生から今日までの町のあゆみを整理した復興誌の作成に向けたヒアリング、海岸でのビーチクリーニング、津波により流出し持ち主が見つからない写真や位牌、記念品などを保管している「**思い出倉庫**」（**保管倉庫**）の展示・公開等を行う。
- 明治大学職員が、福島県新地町で開催された、復興を祈念した「第2回やるしかねえべ祭」にボランティアとして参加。地元の皆さんに「**マジックの披露**」と「**けん玉の指導**」を行う。
- 理工学部が行っている夏休み科学教室の一部を新地町立駒ヶ嶺小学校において「**夏休み科学教室in新地町**」として開催。



津波で流された思い出の品々



マジックを披露する本学職員



夏休み科学教室in新地町

新地町概要

人口約8,000名。福島県最北部の太平洋岸にあり宮城県山元町に隣接。東日本大震災では、沿岸部のみならずJR常磐線新地駅周辺の市街地まで津波による被害を受けたが、現在では、同町の復興プランが、閣議決定を受けて新成長戦略に示された「環境未来都市」に採択されている。

IV 教育・研究活動における支援活動

(1) 学部間共通総合講座『東日本大震災に伴うボランティア実習』の開講

明治大学は、ボランティア活動を含めた学習を単位付与する実習科目を設置しました。学生の震災関連ボランティアを後押しして被災地支援につなげるとともに、ボランティア活動を通じて学生の自主性や社会性を育むことを期待しています。同講座では、事前講義、被災地での大学が計画したボランティア実習、活動報告書の作成・提出、活動報告会での発表を含めて計60時間以上の学習・実習に従事した学生に単位を付与します。

(2) 教務部「ボランティアに参加する学生への授業措置等の配慮」

ボランティアに参加する学生を大学として支援する立場から、ボランティア活動による授業や試験を欠席した学生には所定の手続きにより、欠席にしない等の配慮をすることとしました。

(3) 研究・知財戦略機構「震災復興支援・防災研究プロジェクト」

明治大学の研究推進機関である研究・知財戦略機構では、復興活動が中・長期にわたることを想定し、被災地域の復興・再生支援のための研究、また将来的に予測される震災被害の最小限化を目指した防災関連の総合的な研究活動を行う研究プロジェクトを実施しています。

V 被災された在学生、入学予定の皆さんへの支援活動

(1) 学生部「経済支援（授業料減免、修学助成金支給、経済支援金）」

甚大な被害に遭われた在学生及び入学予定者に対し、授業料減免、修学助成金（年額72万円）並びに緊急奨学金の経済支援を講じました。授業料減免や修学助成金（年額72万円）等の特別措置については、2013年度も継続します。

(2) 入学センター「入学検定料の免除」

東日本大震災で被災された受験生の皆さまにつきまして、2013年度入試の入学検定料（受験料）を全額免除する事を決定しました。

(3) 学生相談室「東日本大震災にともなう相談」

生活全体が大きな変化にさらされた結果としての精神的動揺や身体症状、また平常時とは異なる緊張状態のなかで体験する心身の不調等があった場合にも、臨床心理士や精神科医による相談・面談を受けられます。

震災復興支援センターでは、学内諸機関や教職員の復興支援活動の状況を取りまとめ、順次、被災地復興に必要な活動を展開してまいります。



明治大学震災復興支援センター

■事務局（教学企画事務局）

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

TEL：03-3296-4288 FAX：03-3296-4353

E-mail：planning@mics.meiji.ac.jp URL：<http://www.meiji.ac.jp/gakucho/index.html>

■浦安ボランティア活動拠点

〒279-0022 千葉県浦安市今川1-13-15

TEL：047-321-6652 FAX：047-321-6685

E-mail：u_marche@meiji.ac.jp

■東北再生支援プラットフォーム

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

TEL：03-3298-4581 FAX：03-3296-4581

E-mail：tohokurp@meiji.ac.jp URL：<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~tohokurp/index.html>